

教育広報

かけはし

第20号 平成7年7月15日発行
発行 千代田区教育委員会



農作業の体験（昌平小 5年）

- 主 ☆九段小学校・幼稚園の校（園）歌・校（園）章が決定
- な ☆（仮称）神田司町二丁目複合施設の基本設計概要
- 記 ☆移動教室（箱根・軽井沢）および婦恋自然体験交流教室

婦恋村のPTAの方に、^{くわ}鍬の使い方を親切に教えていただきました。なれない仕事なので、すぐに腰が痛くなってしまいました。農作業の大変さがよく分かりました。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

九段 小学校の校歌・校章・園章が決定

このたび、九段小学校・幼稚園の校歌・園歌、校章・園章が制定されました。

制定にあたっては、これまで同小学校・幼稚園において、制定委員会を設置し、検討を進めてまいりました。そして五月二十二日に開催された九段小・幼稚園協議会において了承され、最終的に校長が正式に決定しました。

六月三日には、九段小学校の講堂にて、校歌・園歌、校章・園章の制定を祝う会が行われました。(下の写真)明日を担う子供たちの心の中でいつまでも響きつづける校歌・園歌、印象に残る校章・園章となっていくことを願ってやみません。



九段小学校 校歌

(たとえ時が流れても)

荒木とよひさ 作詞
鈴木邦彦 作曲

Andante ♩=100

1. と も だ ち と が め ぐ り あ え の は と お
2. と も だ ち ち が な や り ん と い た な ら の む
3. と も だ ち ち が な き っ と た か も の ー の た ま

い の み ら い か ら の や く そ ぐ だ か ら こ の
に ぽ た ン か あ し け て も い い あ つ ま で う の
こ の

て き の あ く し を す れ ば こ こ る が あ つ く な ら え が
き の こ と ば を い い す ば こ な み だ に あ げ る さ せ け
の を い い す ば こ な み だ に あ げ る さ せ け

お か を な げ ば い つ も げ ん き が ー わ い で く る
あ し い っ ぱ に い つ も お し て て あ げ る か ら

ー た と え と が な が れ て も つ れ て て ち ゅ う あ し
ー た と え と が な が れ て つ れ て て ち ゅ う あ し

た た ー あ お い そ ら の む こ う ま ま で で ゅ め と き ば う お い か け
た た ー あ お い そ ら の む こ う ま ま で で ゅ め と き ば う お い か け

て て て

一、友だちとめぐり逢えたのは
遠い未来からの 約束だから
この手で握手をすれば 心が熱くなる
笑顔が投げればいつも 元気がわいてくる
たとえ時が流れても
連れてゆこう あしたへ
青い空のむこうまで
夢と希望 追いかけて

二、友だちが悩んでいたなら
胸のボタンあけて 聞いてあげよう
勇気の言葉をひとつ 涙にあげるから
背中をみんなで見つめて おしてあげるから
たとえ時が流れても
連れてゆこう あしたへ
青い空のむこうまで
夢と希望 追いかけて

三、友だちは きっと宝物
たまに喧嘩しても いついつまでも
背のびを一緒にすれば 雲さえたかめるさ
駆け足一緒にすれば どこかでまた逢える
たとえ時が流れても
連れてゆこう あしたへ
青い空のむこうまで
夢と希望 追いかけて

校章・園章について

小学校・幼稚園は同じデザインで、色のみを変えています。
九段の「九」の文字に、
・大地からの吸収と成長 ・子供の姿
・子供の伸びようとする可能性
を含めています。
また、「九」の文字の各部分については、
左下の図のような意味をもたせてあります。

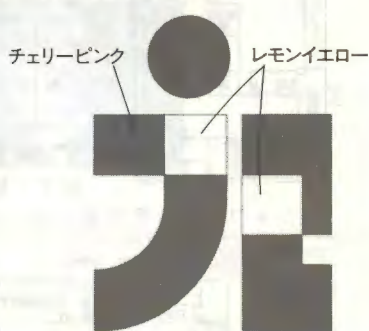
校章・園章の制作者

太田 幸夫氏

校章



園章



くだんようちえんのうた

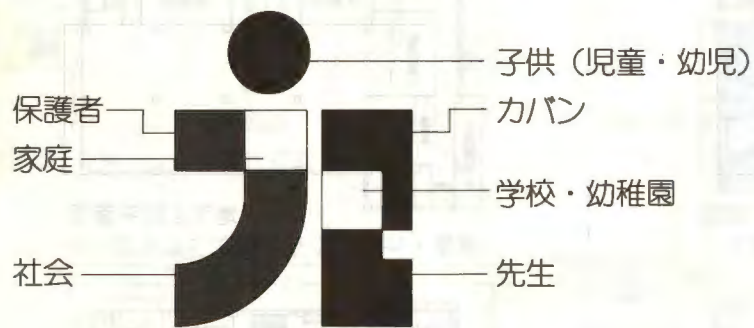
阿部直美 作詞
渡海悟郎 作曲

♩=120

1. さ くら の は な び ら ゆ れ る あ お ぞ ら お ひ さ ま ひ か る
2. く す の き は つ ば が ゆ れ る た の し い う た こ え ひ び く

お す な ば ま ま こ と び い し に あ そ ぼ
か け っ こ な わ と び げ ん き に あ そ ぼ
み ー ん な な か よ し
く だ ん よ う ち え ん

さ くら の は な び ら ゆ れ る
あ お ぞ ら お ひ さ ま ひ か る
お す な ば ま ま こ と び
い し に あ そ ぼ
く だ ん よ う ち え ん
く す の き は つ ば が ゆ れ る
た の し い う た こ え ひ び く
か け っ こ な わ と び
げ ん き に あ そ ぼ
み ー ん な な か よ し
く だ ん よ う ち え ん



音楽鑑賞教室

六月九日、伝統を誇る日比谷公会堂において音楽鑑賞教室が開かれ、午前中は小学校六年生、午後は中学校一年生が参加しました。

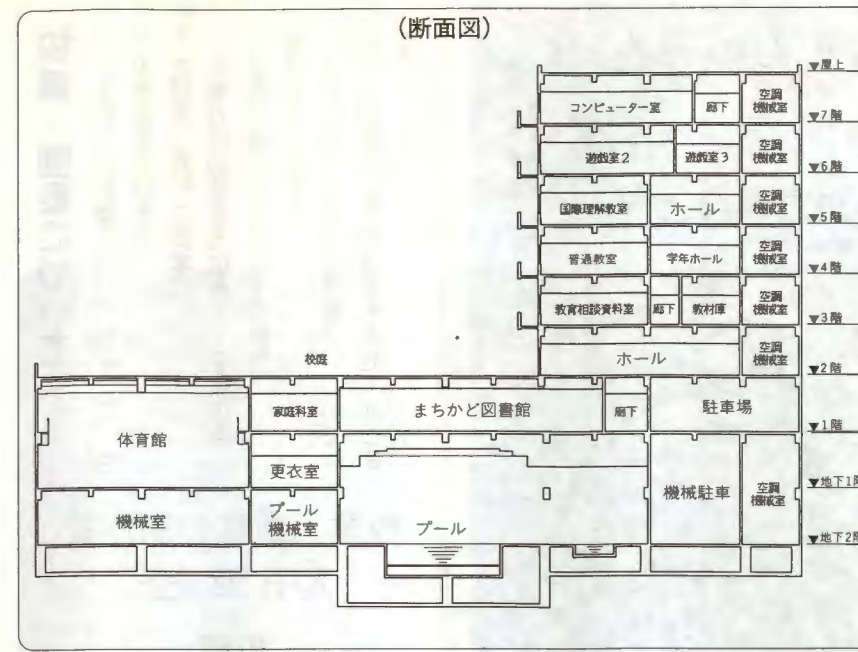
オーケストラの生の演奏にふれ、音楽に対する親しみをいっそう深めてもらいたいという願いのもと、東京都交響楽団による素晴らしい演奏を、こころゆめま

で鑑賞することができました。



「神田司町二丁目複合施設」の基本設計概要について

神田司町二丁目複合施設は、旧神田小学校の敷地に建設されるもので、千代田小学校・幼稚園、まちかど図書館、教育研究所からなる施設です。この複合施設を建設するにあたり、地域及び学校関係者の皆さんと話し合いを続け、よりよい施設を目指して検討を進めてきました。その中間報告として基本設計の概要をお知らせいたします。今後さらによい施設となるよう十分な検討を重ねて行きます。



施設の基本的考え方

1 小学校・幼稚園

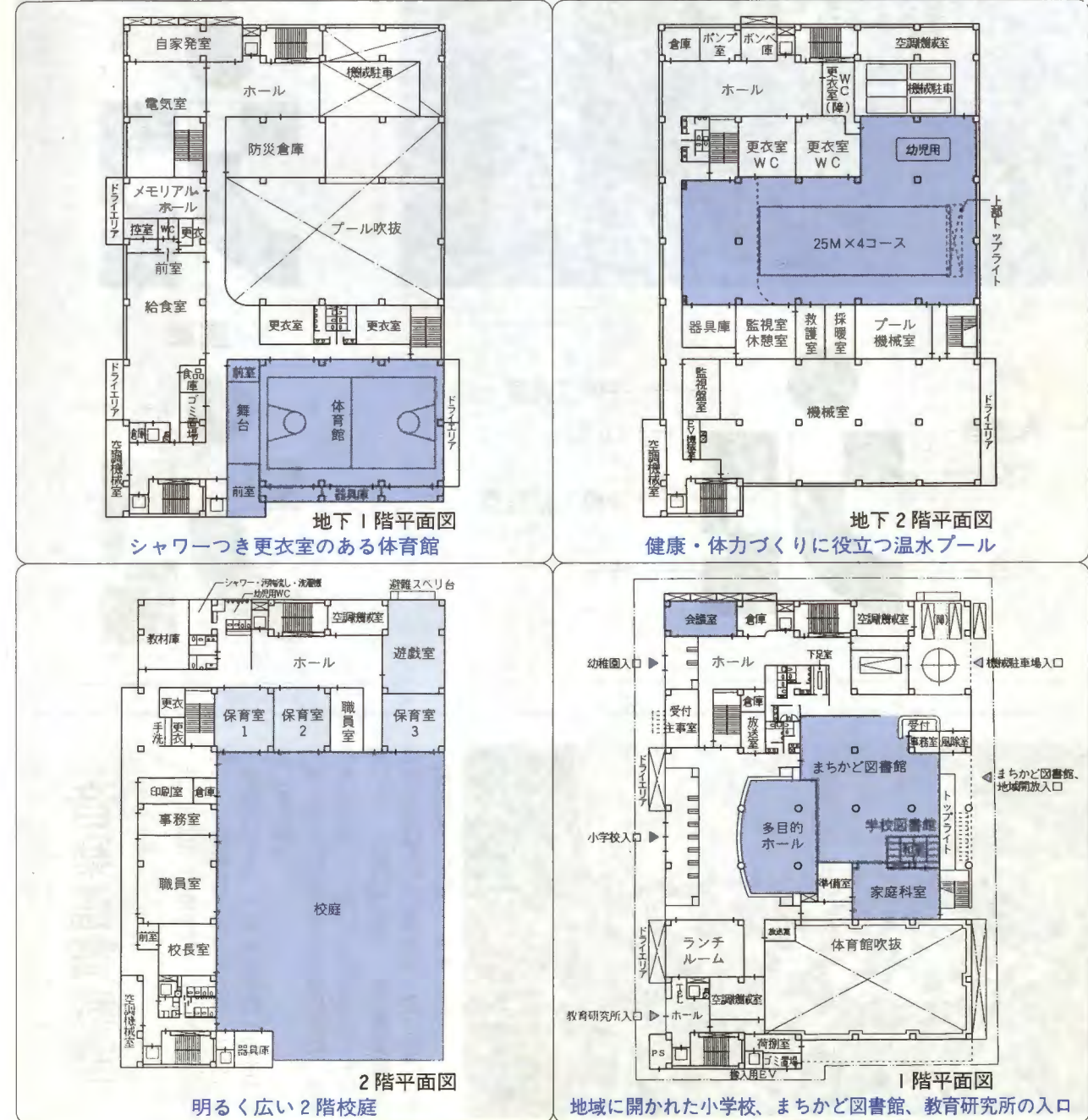
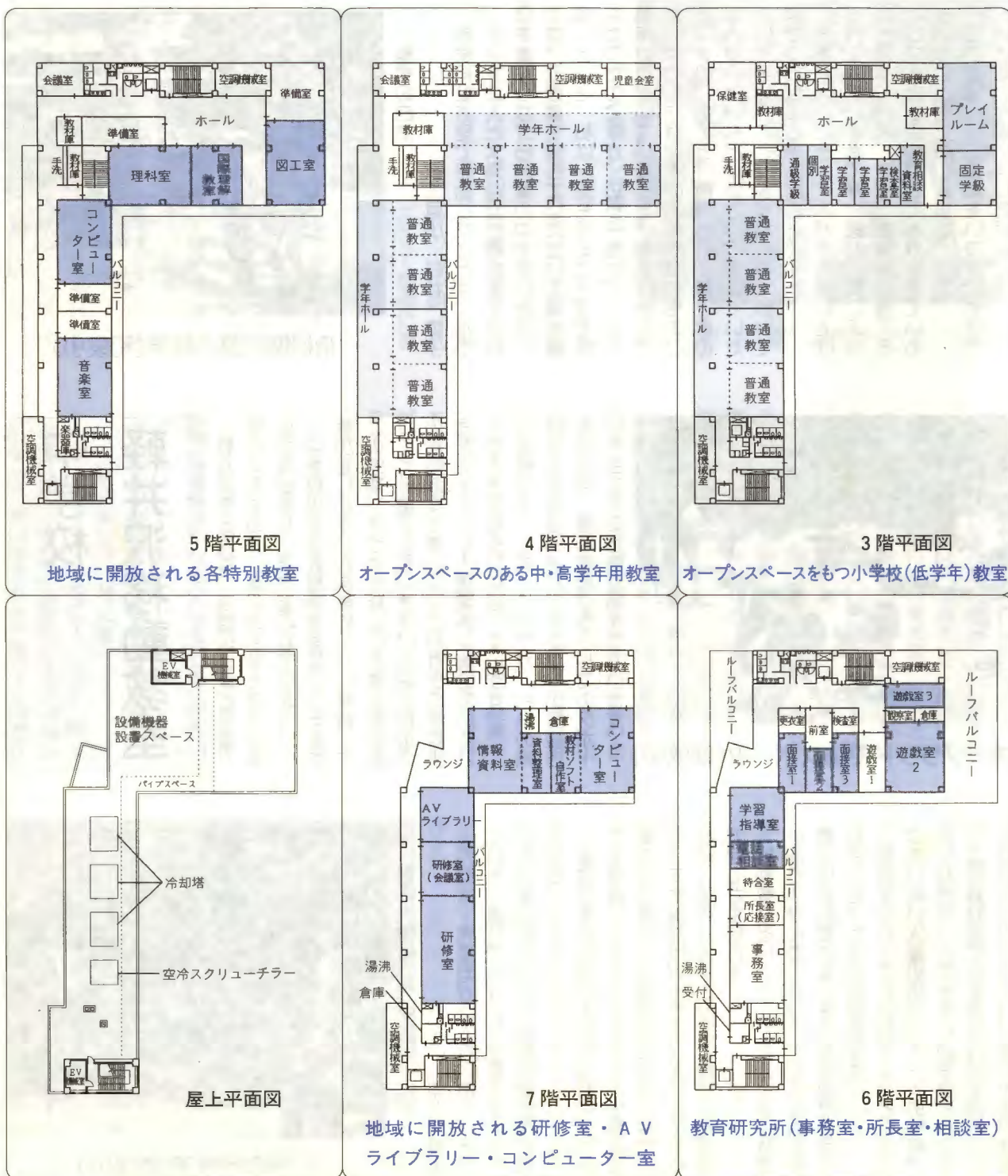
- (1)新しい時代に対応した開かれた施設
国際学校の性格を持った学校として、また、地域の人々の生涯学習を支援するためのコミュニティスクールとしての施設機能を整備します。
- (2)新しい教育方法・形態に対応した施設
高度情報化や幼児・児童の個性を伸ばす教育などに対応した施設機能を整備します。
- (3)多様な学習活動が展開できる施設
個別学習、グループ学習、課題解決学習など多様な学習活動が行えるよう、オープンスペース、多目的ホール等多様な空間を整備します。
- (4)心身障害教育の充実と障害のある方々にやさしい施設
学校と教育研究所との連携により、心身障害教育の充実を図るとともに、障害のある方々にとってやさしく、使いやすい施設機能として整備します。

2 まちかど図書館

学校図書室との連携を図った地域住民に利用しやすい、身近な図書館として整備します。

3 教育研究所

現在、調査研究部門と教育相談部門がそれぞれ別れていますが、それらの機能を一か所にまとめて、千代田区の教育水準をより一層向上させる施設として整備します。



小学校 箱根移動教室

五月八日から六月二日まで小学校六年生が参加する箱根移動教室が実施されました。この時期の箱根は、全山目にしみるような新緑におおわれ、すがすがしい空気に包まれています。箱根には旧東海道、石畳、石仏群、杉並木、関所跡、深良用水など歴史的な学習はもとより、箱根の地形、岩石、火山活動、植物など理科的な学習素材も豊富です。



霧雨の大涌谷(お茶の水小)

箱根移動教室で感動したことは、ポラニアの人々と大涌谷から宿舎まで、自然を観察しながら若葉の中を歩いたことです。双眼鏡を貸していただいていた鳥を観察しました。私は一羽も見ることができなかったのですが、辺り一面ウグイスの鳴声がひびいていました。初めは歩くのがいやでしたが、木の名前や葉の形のこと、きのこのこと、食べられる草と毒のある草の違いなど、いろいろ教えていただいていた自然のことがよくわかり、歩いてよかったなあと思いました。

一番驚いたことは、木が水を吸い上げる音を聞いたときです。最初は聞こえないと思っていましたが、聴診器を当てるとゴォーと水の音がして木が生きているということを実感しました。

このすばらしい自然をいつまでも守っていききたいと思いました。



箱根関所跡の見学(和泉小)

中学校 軽井沢移動教室

軽井沢の五月は、浅間山にまだ残雪が見られるものの、木々の若葉を透けた柔らかな日差しに満ちあふれています。

中学校の軽井沢移動教室は、一年生が参加をします。入学後約一か月経過したこの時期、ようやく新しい友達と打ち解けてくる頃だと思えます。二泊三日のこの移動教室を通して、これからの学校生活を支えていく人間関係を築いていくことが大きなねらいになっています。

学校によって異なりますが、白糸の滝付近の自然遊歩道ハイキング、小諸懐古園の見学、箱根村営グラウンドでのスポーツ大会などの活動が組まれています。



箱根グラウンドでのスポーツ(練成中)



白糸の滝散策(練成中)

軽井沢宿舎での生活

九段中 浦上 爾実
今回は、先生方が念入りにおつしやっていた、遊びではない、教室だ!!という言葉にもとづいて移動教室が行われました。

僕は班長になり、とてもうれしかったのですが、いざ行つて見ると小学校とはまったく違い、仕事がとてもハードでした。でも僕だけがそう思っていたのではなく、班員一人一人がそう思い、その中で協力が生まれました。

移動教室ということであまり自由時間はありませんでした。それでも自由時間にはみんなの楽しそうな笑顔が、見られました。もちろん僕もです。

まだ知り合つて一か月ちょっとしかたっていない人達の中で一人一人の性格がよくわかり、とても楽しい教室でした。この軽井沢での生活は九段中のみつぱち精神を生かすことができたと思います。

小学校 箱根自然体験 交流教室

小学校五年生が参加する箱根自然体験交流教室が、今年も五月の連休明けから二期に分かれて実施されました。

この交流教室は、平成二年度から一部の学校で試行的に行われ、平成五年度から小学校八校で完全実施することになりました。したがって今年で通算六回目になります。



千俣小の子と一緒に農作業(昌平小)



おいしかった鱈の塩焼き(お茶の水小)

五月八日から私達は箱根自然体験交流教室に参加しました。

一日目の夜は、みんな興奮してなかなか眠ることができませんでした。私もそうでした。そのため、次の日の朝、六時におきろのガとでもつらくて朝会におくれてしまいました。

二日目、楽しみにしていた農作業です。畑に着いたらもう耕してあり肥料もまいてありました。とてもうれしかったです。田代交友会の方達はとてもやさしく教えてくださいました。じゃがいもは種いもで、キャベツは苗で植え、トウモロコシは種をまくことがわかりました。

楽しいことはどんどん過ぎてしまいました。帰るのがおもしろい程でした。

この三日間、仲間と協力して生活して友達のようにふるまうことができたことが一番うれしかったことでした。

春の馬鈴薯植付け作業を終えて

箱根自然体験交流の皆さんこんにちは。五月の馬鈴薯植付け作業大変苦勞さまでした。今年は春先寒い日が続き例年になく遅れていました。六月に入っても寒い日があり農作物も遅れているようです。箱根小学校の植付け作業では、雨のうえにとても寒い日でした。皆様頑張って農作業は終わりましたが、風邪などひきませんでした。

植付けから早いもので約一か月が過ぎました。今では青々とした馬鈴薯の芽も成長し、第一回目の管理作業が始まりました。これから秋まで学校・PTA・田代交友会の皆さんで馬鈴薯の収穫まで管理を行います。

各学校でも生計等について情報交換をお願いしたいと思えます。馬鈴薯は連作を嫌う作物なので、作付け場所を出るだけ変えて輪作をしないと良い収穫ができません。近くに広い畑等がなく輪作が大変な学校もあるようです。

今年の自然体験学習は期間を通じて概ね天候に恵まれ、農作業が無事終了しホッとしているところです。

秋の紅葉も素晴らしい箱根村です。馬鈴薯の収穫を楽しみにしていただきたいと思います。

春を呼ぶ箱根自然体験交流教室

軽井沢少年自然の家
支配人 中沢 昭夫
五月初旬、浅間山の雪も消えつつあるこの季節、遅い春が来たと気付く時です。



またぜひ来て下さいね!!
(「軽井沢少年自然の家」一同)

随想

きょういく

「教育を支えるものは何か」と突然校長に尋ねられたことがある。今から二十年も前の話である。

教育は子供と教師との信頼関係の上に成り立つものと思っていたので、自信をもって即座に「それは信頼と思う」と申し上げた。校長は穏やかに頭を上げ、「信頼よりもっと深く大切なものがある。それは愛である。信頼も愛から生ずるものなのだ。」と諭された。

それ以来、この校長の話を私は決して忘れない。また「教育は愛である」の言葉を座右の銘として頂戴している。

さて、戦後六・三制が施行されてから半世紀近くも経過しているが、この制度の施行に当たり、昭和二十二年三月十三日の衆議院本会議における椎熊三郎議員の文部委員会の審議経過報告は、誠に胸を打つものがある。

その報告とは概ね次のような内容である。「永井勝次郎議員より、いま六・三制を実施しても校舎や教科書など甚だ心もとないが、文部当局は施策をもっているのかという質問がありました。これに対して日高文部省学校教育局長は、『敗戦国日本は次代を担う青少年に絶大な期待をかけている。そのため教育の刷新が必要である。しかるに現状は子供たちに一冊の教科書すら与えることができず、遺憾千万で』と述べる途中言葉が詰まり、涙はとめどなく頬を伝い、遂に声をあげ

て泣きました。各委員一声も発せず寂として声なき状況でありました。」

今日では校舎建築はその様相を一転し、設備も充実され、教科書は無償で配布されている。物質的には世界のどの国の子供たちよりも恵まれた生活を送ることができるようになった。その反面心の荒廃が大きな課題となっている。

それは愛から

九段中学校長

大宮光徳



この時改めて日高局長の子供たちに対するひたむきな愛情にふれるとき、胸がしめつけられる思いがするのである。

教育の父ペスタロッチが世の中傷の中で孤児達の教育に心血を注いだことも、新渡戸稲造が全生涯を教育と世界平和に尽くしたことも、その発する源は愛であり「無償の愛」であることに思いをいた

せば、愛の普遍的真理を覚える。「子育てにおける母親の愛も斯くの如し」である。

過日、皮膚科に世話になったとき、診療室の奥から幼児の泣き声とその母親であらう人の声が漏れてきた。「もうすぐ終わるからね、ごめんね、ごめんね」という母親の声を聞くたびに、この親子を救ってやって下さいと天に祈る気持ちであった。

やがて子供を抱いて部屋から出てきた母親の顔にも涙が光っていた。

医者の話によると、子供は胸元の痣の剥皮術を受けているという。手術は数回に分けて行いが、剣山の先の針のようなもので叩くので、相当の痛みが伴うものだともいう。子供は母親に「もう病院に行くのはいやだよ、お母さんのいうことは何でもきくから」といって母親を困らせるということだと付け加えている。

子を思う心は母親も父親も同じではあるが、父親はその切なさに負け、子を病院の玄関先までも連れてゆくことはできませんまい。「獅子の子落し」も母獅子の話に違いない。母親の愛は深く、強い。

おみや みつのり
区立中学校長会長

随想

きょういく

編集後記

一学期も瞬く間に過ぎてしまったように思えます。しかし、振り返ってみると移動教室や婦恋自然体験交流教室、中学校では修学旅行や運動会と大行事が目白押しでしたが、いずれも大きな成果をあげ、無事終了したことは何よりでした。

さて、いよいよ夏休みです。高原学校や臨海学校、水泳指導等の夏季施設はもとより、ふだんあまり出来ない学習や体験等も長い夏休みならではのことと思います。そして何よりも大切なことは、この夏休みを通して家族の心の絆を一層強く結び合えることです。楽しく、しかも充実した夏休みが送れるように家族全員で話し合い、計画を立てることから始めたいかがでしょうか。

九月発行予定の「かけはし」第二十一号では、夏休み中の子供たちの元気な姿を是非ご紹介したいと考えております。どうぞご期待ください。

「かけはし」についての意見・感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第二十号
平成7年7月15日発行
編集発行／千代田区教育委員会
〒102 千代田区九段南1-6-11
☎(03)264-0151 内3114